

修士論文（要旨）

2012 年 1 月

中学校英語教育における EIAL 試案
ー教科書に表れた英語母語話者志向の言語観を問うー

指導 森住衛 教授

言語教育研究科

英語教育専攻

210J3051

橘広司

目次

序論 研究の背景、立脚点、目的など	1
第1章 日本の中学校英語教育がよるべき EIAL の言語観・英語観	5
第1節 Kachru の World Englishes における権力の問題	5
1. Kachru による WE 論と「3つの同心円モデル」	6
2. 「英語－その他の言語」間の権力の問題	7
3. 「標準的な英語－その他の英語」間の権力の問題	10
4. 日本の中学校英語教育への示唆	13
第2節 EIAL の言語観・英語観と英語教育	16
1. 森住衛における EIAL の言語観・英語観	16
2. アンケート調査に見る中学1年生の言語観・英語観	18
3. EIAL に依拠した英語教育における留意点	22
第2章 教科書における母語話者志向と多民族尊重の二重性	26
第1節 中学校学習指導要領と戦後教科書における枠組転換	26
1. 指導要領の変遷	27
2. 教科書の変遷	28
第2節 ポスト戦後枠組における二重性の問題	30
1. 題材における問題点	31
2. 言語材料における問題点	32
第3節 民族共生枠組の構築	34
1. 3つの枠組における民族的・言語的空間	34
2. 民族共生枠組における異文化理解教育の骨子	36
第3章 教科書の登場人物名に見る母語話者志向のイデオロギー	38
第1節 日本人登場人物による初対面の呼称と母語話者志向の問題	38
1. バルトの「神話作用」論から見る教科書のイデオロギー	39
2. 日本人登場人物による「初対面」における呼称の実際	41
3. 日本人登場人物による呼称が内包する「神話作用」	42
4. 日本人における苗字の重要性	44
第2節 短音節化された日本人名と母語話者志向の問題	48
1. 名前と民族のアイデンティティ	48
2. 英語・国語教科書における日本人名の音節数の比較分析	49
3. 日本人名の短音節化と母語話者志向のイデオロギー	51
第4章 教科書における「EIAL の1つとしての日本英語」導入の考察	53
第1節 教科書における「日本英語」の具体例	53
1. 日本語の流用	53
2. 日本的表現の適用	55
第2節 中学1年生に伝える EIAL	60
1. 生徒の言語観・英語観を変える授業実践	60
2. 「日本語に関する3つの質問」と生徒の気づき・感想	62
結論 本研究の結論、応用性、今後の課題	65
参考文献	70

要旨

戦後日本の異言語(外国語)教育は、ほとんどの場合、英語教育を意味してきた。また、その英語教育が唯一のモデルとしてきたのは母語話者の英語であった。筆者は、言語および諸英語変種の多様性の尊重という観点から、この異言語教育のあり方を問題視する。本稿の趣旨は、現在の中学校英語教育に見られる英語母語話者志向の問題を追究し、EIAL(English as an International Auxiliary language: 国際補助語のひとつとしての英語)の言語観・英語観に依拠する新たな英語教育の枠組を提示することである。英語母語話者志向(以下、母語話者志向)とは、母語話者の歴史的・社会文化的背景に根ざした英語こそが正統かつ至上のモデルであるとする認識、および母語話者のもつ価値観を普遍的だとする態度を指す。EIAL とは、森住(2008a, c)、Morizumi(2009)による世界の多様な言語および英語変種を尊重する言語観・英語観、さらに個々の英語変種それ自体のことである。本稿の具体的な目的は以下の 4 点である。

- (1) 日本の英語教育が拠るべき EIAL の言語観・英語観を提示すること。
- (2) 教科書における母語話者志向と多民族尊重の二重性を究明し、新たな枠組を提案すること。
- (3) 教科書を調査し、登場する日本人名に表れた母語話者志向性を検証すること。
- (4) 「EIAL の 1 つとしての日本英語」の教科書への導入を提案すること。

これらの目的を、それぞれ本論第 1 章から第 4 章の各章にて論ずる。第 1 章では、目的(1)を中心に論ずる。「英語の脱英米化・多様化」の文脈で語られることの多い Kachru の WE (World Englishes)論における問題点を検証する。支配者の言語である英語への抵抗として生まれた WE 論であるが、そこには英語に「普遍語」・「世界語」という特別な価値を付与するような、いわば英語における権力の問題が依然としてまわりついている。この問題は、日本の英語教育が抱える問題でもあることを示したい。そのうえで、日本の英語教育が拠るべき絵言語観・英語観としての EIAL を提示する。

第 2 章では、目的(2)を中心に、現在の英語教科書は、多様な民族が登場する一方で、単一の母語話者規範に固執しているため、本質的な異文化理解教育に至っていないということについて論ずる。さらに、この二重性の問題を解消するために、EIAL にもとづいた英語教育の新たな枠組を提示する。

第 3 章では、目的(3)を中心に、個々人および諸民族のアイデンティティの根幹ともいえる「人名」に焦点をあてて教科書の調査・考察をする。とくに、日本人登場人物の初対面での呼称や、日本人名の短音節化傾向から「母語話者志向のイデオロギー」を解明する。

第 4 章では、目的(4)を中心に、以上に論じてきた問題の改善策として、「日本英語」の教科書への導入を、具体的な例をあげながら提案する。また、現時点でできることとして実施した自作教材を使つての授業実践を、本稿の理論の実践化という位置づけで報告する。最後に、授業後に生徒が書いた感想や気づきなどをふまえつつ、今後の展望について論ずる。

ことばの教育は、とりもなおさず思想の教育といえよう。世の中は、いつの時代もある種

の思想によって動かされる。教える側の導き方によって、戦争への気運が高まったり、平和を希求する人間が育成されたりするという事実は歴史が示すとおりである。英語のような大言語を教える際に、その英語が「均質化を推し進める権力としての英語」か、「多様化を認める民族共生のための英語」かということもまた、きわめて重大な思想的問題である。ことばそのものを大事にする心もち、自己の確立、他者の理解を積極的に果たすような学習者を育成するために、筆者は EIAL の言語観・英語観に依拠した英語教育が必要であると考え、それがひいては世界の恒久平和へつながることを願って、本稿を提出する。

主な参考文献

- 江利川春雄(1992)「戦後の英語教科書に見る異文化理解の変遷」『日本英語教育史研究 第7号』日本英語教育史学会
- 呉人恵(2003)『危機言語を救え！ーツンドラで滅びゆく言語と向き合う』大修館書店
- サピア, エドワード(1998)『言語ーことばの研究序説』安藤貞雄訳, 岩波書店
- 鈴木孝夫(1999)『日本人はなぜ英語ができないか』岩波新書
- 橋広司(2011)「日本人における『苗字の重視』と英語教科書に見る呼称の問題ー『初対面』の場を中心にー」『言語教育研究』創刊号 桜美林大学大学院言語教育研究科 67-78
- 津田幸男(2005)「グローバリゼーション、英語支配、ことばのエコロジー」津田幸男編『言語・情報・文化の英語支配ー地球市民のコミュニケーションのあり方を模索する』明石書店
- 中村敬(2004)『なぜ、英語が問題なのか？ー英語の政治・社会論』三元社
- 芳賀綏(2004)『日本人らしさの構造ー言語文化論講義』大修館書店
- バルト, ロラン(1967)『神話作用』篠沢秀夫訳, 現代思潮社
- 日野信行(1999)「英語教育における〈国際英語〉研究の課題ー国際英語思想史及び言語文化論の視点を中心に」『言語文化研究 25』大阪大学言語文化部大阪大学大学院言語文化研究科
- フーコー, ミシェル(1977)『監獄の誕生ー監視と処罰』田村俣訳 新潮社
- 本名信行(1999)『アジアをつなぐ英語ー英語の新しい国際的役割』アルク
- 見田宗介(1995)『現代日本の感覚と思想』講談社
- 宮岡伯人 (1996)「文化のしくみと言語のはたらき」, 宮岡伯人編『言語人類学を学ぶ人のために』世界思想社 3-41
- 森住衛(2008a)「EIAL の一例としての「日本英語」ーその目指すべき方向を求めて」日英言語文化研究会編『日英の言語・文化・教育ー多様な視座を求めて』三修社
- (2008b)「中・高英語教育の来し方・行く末ー戦後 60 年の教育課程と学習指導要領の総括の試みー」『桜美林シナジー』 第 6 号 桜美林大学大学院国際学研究科
- (2008c)「日本人が使う EIALー立脚点・内実の方向性・教科書の扱いー」『アジア英語研究』第 10 号 日本「アジア英語」学会編
- ラミス, ダグラス(1976)『イデオロギーとしての英会話』晶文社
- 渡辺己 (2004)「北アメリカ北西海岸先住民にみる言語とアイデンティティ」小野原信善・大原始子編『ことばとアイデンティティ』三元社
- 和辻哲郎(1935)『風土ー人間学的考察』岩波書店
- Kachru, Braj. (1986) *The Alchemy of English: the spread, functions and models of non-native Englishes*. Oxford: Pergamon Press.
- Morizumi, Mamoru. (2009) 'Japanese English for EIAL---Its Standpoints, Substance and Introduction in the Textbooks' in J. Jenkins and K. Murata *Global Englishes in Asian Contexts : Current and Future Debates*. Palgrave-Macmillan.
- Nettle, Daniel & Romaine, Suzanne. (2000) *Vanishing Voices: The Extinction of the World's Languages*. Oxford University Press.
- Pennycook, Alastair. (1994) *The Cultural Politics of English as an International Language*. Longman.